

# 教育現場のオンライン化の推進

- ・GIGAスクールネットワーク構想(公立)(076)
- ・公立学校施設整備費(GIGAスクールネットワーク構想(公立))(100)
- ・国立大学法人における設備等の整備(152)※国立の小・中・高
- ・GIGAスクールネットワーク構想(私立)(162)
- ・独立行政法人国立高等専門学校機構情報通信ネットワーク環境施設整備に必要な経費(149)
- ・新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業(075)
- ・小・中・高等学校を通じた情報教育強化事業(074)
- ・教科書の検定調査発行供給等(068)の内、学習者用デジタル教科書普及促進事業
- ・学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究(010)
- ・教育課程研究センター(077)

令和2年11月15日(日)  
内閣官房行政改革推進本部事務局  
説明資料

# GIGAスクール構想及び予算規模

- 教育現場のオンライン化の推進は我が国にとって重要な課題。
- 文部科学省は、GIGA(Global and Innovation Gateway for All)スクール構想を推進しており、これまでに4,610億円の予算が措置され、令和3年度概算要求においても151億円を要求。

(これまで)令和元年度、令和2年度補正予算

## ○児童生徒の端末整備支援 2,984億円

- ・1人1台端末の実現(2,973億円)  
国公立の義務教育段階の児童生徒用PC端末整備を支援(補助)
- ・障害のある児童生徒のための入出力支援装置整備(11億円)  
視覚や聴覚等の障害に対応した入出力支援装置の整備を支援(補助)

## ○学校ネットワーク環境の全校整備 1,367億円

国公立の小・中・特支・高校の校内LAN環境等の整備を支援(補助)

## ○GIGAスクールサポーターの配置 105億円

学校ICT化を進める自治体等のICT技術者の配置経費を支援(補助)

## ○家庭でのオンライン学習環境の整備 154億円

- ・家庭学習のための通信機器整備支援(147億円)  
Wi-Fi環境のない家庭への貸与等によるLTE通信環境(モバイルルータ)の整備を支援
- ・学校からの遠隔学習機能の強化(6億円)  
学校側が使用するカメラやマイクなどの通信装置等の整備を支援
- ・「学びの保障」オンライン学習システムの導入(1億円)  
学校や家庭で端末による学習・アセスメントが可能なプラットフォームの導入に向けた調査研究の実施

合計4,610億円

(これから)令和3年度概算要求

## ○GIGAスクールサポーター配置促進事業 53億円

学校ICT化を進める自治体等のICT技術者の配置経費を支援(補助)

## ○学習者用デジタル教科書普及促進事業(52億円)

- ・学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業(補助)(50億円)
- ・学習者用デジタル教科書のクラウド配信に関するフェジビリティ検証(委託)(1億円)
- ・学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究(委託)(0.7億円)

## ○オンライン学習システムの全国展開、教育データ等の利活用推進 36億円

## ○全国学力・学習状況調査のCBT化に向けた試行検証、問題開発等 6億円

※Computer Based Testing: コンピュータ使用型調査

## ○GIGAスクールにおける学びの充実 4億円

「ICT活用教育アドバイザー」等による整備・活用支援、情報モラル教育推進事業、児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究を実施(委託)。

合計151億円

# 児童生徒一人一台端末及び学校の通信環境整備の状況

- GIGAスクール構想では、児童生徒一人一台端末と学校における高速大容量の通信ネットワーク整備を一体的に行うことで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する、としている。
- 整備の進捗に大きな差は生じていないか。

## 児童生徒一人一台端末の整備

(令和3年3月末見込)

99.5%

※文部科学省「GIGAスクール構想の実現に向けた調達等に関する状況(8月末時点)について(速報値)」より。

教育現場の実態は？

## 学校の通信環境の整備

○普通教室の無線LAN整備率

(令和2年3月)

(令和3年3月末見込)

48.9% ⇒

?

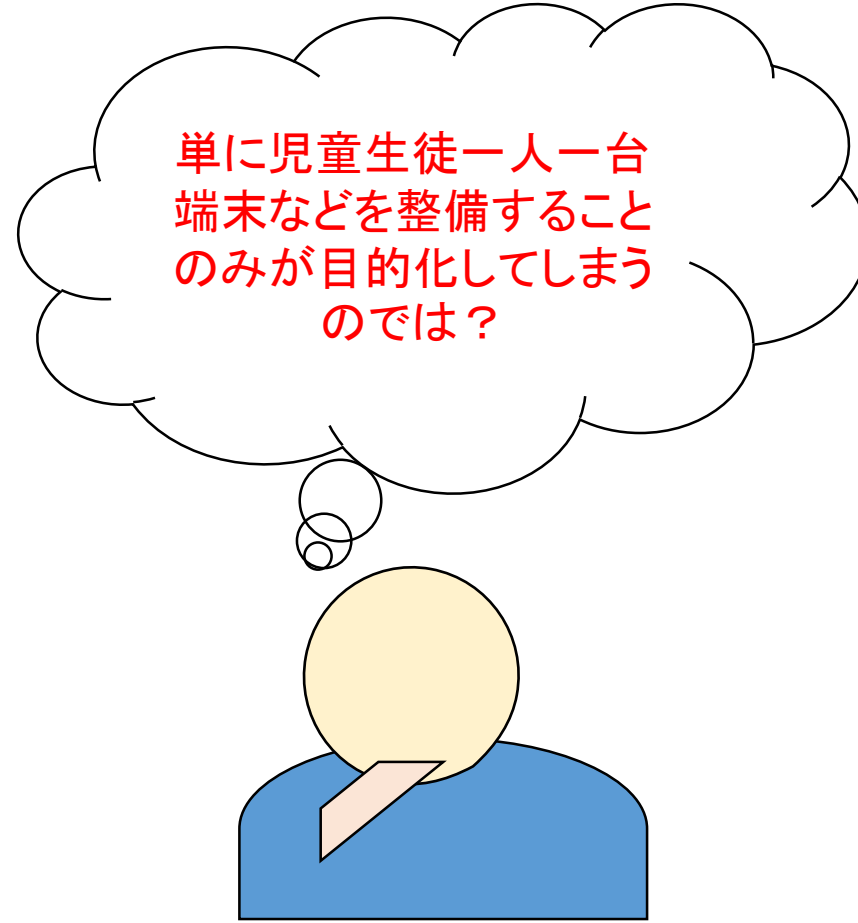
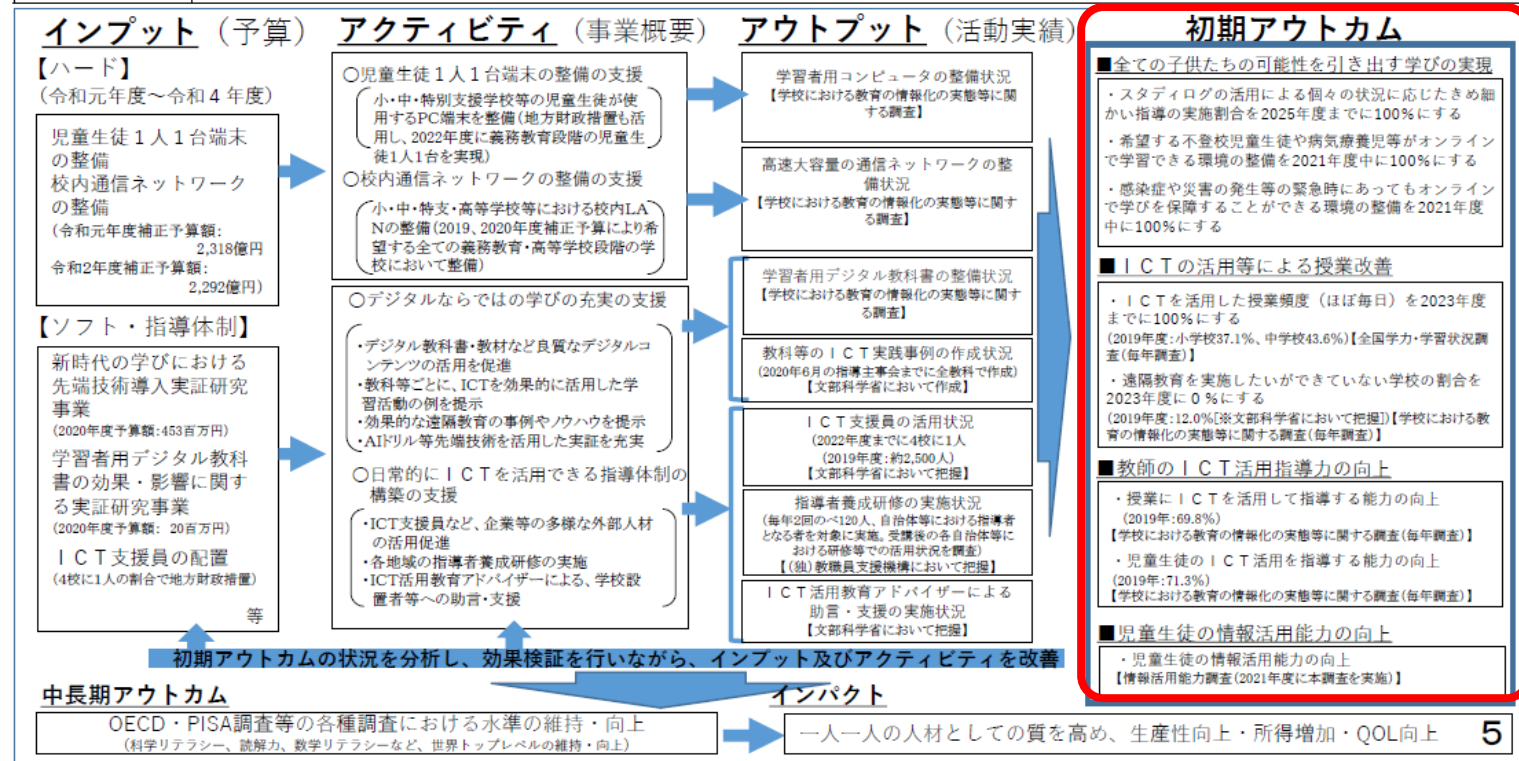
※文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査[確定値](令和2年3月現在)」より。

# 政策目的や各種取組の位置付け

- GIGAスクール構想の実現は我が国にとって重要な課題であり、その実現には多額の予算が必要とされる中、事業の推進に当たっては、**国民に対する説明責任**を果たしていくことが重要。
- 初期アウトカムとされているものは、すべてアウトプットであり、**政策目的及び各種取組の位置付けが不明確**。

## GIGAスクール構想の実現 ロジックモデル

解決すべき問題・課題	Society 5.0時代を生きる子供が未来を切り拓いていくための資質・能力を育成する質の高い学びを実現するためには、教育におけるICT活用が不可欠である一方、学校ICT環境の整備は遅れており、自治体間格差も大きい。また、世帯年収が低い家庭ではインターネットが利用されていない傾向にあるといった格差も存在する。このような中、OECDの学習到達度調査(PISA2018)などにおいて、我が国の児童生徒について、デジタルテキストも含めた読解力や情報活用能力など情報化への対応にも課題がみられる。ICTを有効活用し、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを実現するため、令和の時代における学校の「スタンダード」として、全国の学校におけるICT環境整備が急務である。また、今般の新型コロナウイルス感染症対策としての学校の臨時休業期間において、子供たちの学びを保障する観点からも、ICTを活用して家庭でも学び続けられる環境を早急に整備することが不可欠。
上記問題・課題と事業との関係	1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークの一体的に整備するとともに、利活用優良事例の創出・普及、日常的にICTを利活用できる体制の整備、利活用のPDC Aサイクル徹底等を進めることで、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる。また、それらの取組を加速することで、全ての子供達の学びを保障出来る環境を早急に実現する。



## 政策目的や各種取組の位置付け(続き)

- GIGAスクール構想の実現は我が国にとって重要な課題であり、同構想を踏まえ、これまでの授業や教育の延長線上ではない新たな授業や教育のあり方を国民に提示し、オンライン授業等に関する各種規制の見直しや必要となる教員の能力の向上等についても検討するべきでは？
  - ✓ 基礎的な学力の習得においては、民間企業とも協力し、優れた授業動画(**双方向型・オンデマンド型**)や**AI型ドリル**を活用することにより、2020年度から小学校の科目として導入された「英語」を含め、より質が高い教育が効率的に提供できるようになる。
  - ✓ 教員が少ない遠隔地でも都市部と同様の質の高い授業の提供が可能となる。
- 本構想に多額の予算を計上していることも踏まえつつ、教育資源をより効果的に配分するため、教育現場のICT化による教務・校務の効率化を進め、教職員数の合理化にも努めるべきでは？
  - ✓ あらゆる授業を各学校の教員が提供する「自前主義」から脱することにより、教員の授業準備やテストや課題の採点に関する教務も効率化できる。
  - ✓ 教育委員会に提出する**各種報告書類の作成**や**保護者への連絡等**についてもデジタル化を進めることにより、校務の効率化が可能である。

# デジタル化に対応するための教員の育成

- 都道府県ごとに教員に対するICT研修に大きな差が生じている。取組に差がある中、所期の目的である「特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境」は実現可能なのか。

年度内にICT活用指導力の状況の各項目に関する研修を受講した教員の割合 (文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」)

調査年度	1位		43位	44位	45位	46位	47位
2015	佐賀 99.6%	.....	山形 21.3%	福島 19.9%	青森 19.5%	岩手 13.7%	秋田 13.1%
2016	佐賀 99.5%	.....	山形 23.1%	福島 20.0%	青森 19.4%	秋田 15.9%	岩手 15.6%
2017	佐賀 101.3%	.....	山形 24.4%	島根 23.2%	青森 22.7%	福島 22.4%	秋田 16.2%
2018	長野 87.3%	.....	福島 26.0%	秋田 24.3%	岩手 24.1%	山形 23.1%	青森 18.3%
2019	大分 92.3%	.....	新潟 33.4%	山形 32.6%	福島 31.4%	秋田 29.8%	岩手 23.6%

(注)「年度内にICT活用指導力の状況の各項目」とは、教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力、授業にICTを活用して指導する能力、児童生徒のICT活用を指導する能力、情報モラルなどを指導する能力。

# 令和3年度概算要求事業について

- 令和3年度概算要求事業について、それぞれ重要な施策である一方、多額の予算が必要とされる中、予算規模の適正化や事業の有効性、効率性は確保されているか。

「GIGAスクールサポーターの配置促進」は、R2補正で措置された105億円の執行が現状36%と低調。R3概算要求の53億円は予算規模として適当？

「学習者用デジタル教科書普及促進事業」は、紙の教科書との位置付けは？原則、紙からデジタルへと切り替えを進めるの？デジタル教科書の価格は紙の教科書より低いの？

「全国学力・学習状況調査のCBT化に向けた取組事業」は、いつから全国学力・学習状況調査のCBT化を始めるかなどの具体的な計画が無い。現状の全国学力・学習状況調査の経費の節減も見込まれることから、効率的かつ計画的に行っていくべきでは？

「オンライン学習システム(CBTシステム)の全国展開、先端技術・教育データの利活用促進事業」は、R2補正で調査研究のための予算が措置されているが実証結果が出るのは今年度末。全国展開は時期尚早では？真に事業の実効性を確保するためにもより計画的に進めるべきでは？



# 主な論点

- GIGAスクール構想の実現は我が国にとって重要な課題であり、同構想を踏まえた新たな授業や教育のあり方を国民に提示する必要があるのではないか。デジタル社会にふさわしい授業や教育のあり方を検討し、これを可能とするよう、オンライン授業等に関する各種規制の見直しや必要となる教員の能力の向上等についても検討されているか。
- 教育資源をより効果的に配分するため、教育現場のICT化による業務の効率化を進めるべきではないか。本構想に多額の予算を計上していることも踏まえ、教育現場のICT化による教務・校務の効率化を進め、教職員数の合理化にも努めているか。
- 令和3年度概算要求事業について、それぞれ重要な施策である一方、多額の予算が必要とされる中、予算規模の適正化や事業の有効性、効率性の観点から、より検討すべきではないか。